

2022（令和4）年度

武蔵大学 FD 活動報告書

武蔵大学ファカルティ・デベロップメント(FD)委員会

FD 活動報告書刊行に寄せて

武蔵大学長 高橋 徳行

2022 年度も一昨年度、昨年度に続いて新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、7月下旬から8月上旬にかけては、東京都内で4万人を超える感染者数を記録しました。しかしその後は、次第に落ち着きを取り戻し、政府も新型コロナウイルスの感染症法上の扱いを現在の2類相当から、季節性インフルエンザと同等の5類に引き下げる方針を発表しています。

この中で、本学の授業運営も徐々に日常を取り戻し、2022 年度の FD 活動が実施されました。

本学は「大学通信」の調査による大学ランキングでは「面倒見が良い大学」として13年連続の首都圏第1位(2022 年度)です。教育力も高く評価され、「教育力が高い大学」としても首都圏8位にランクされています。このことは、一人ひとりの先生方の日々の努力の結晶であり、FD 活動は先生方の日々の取り組みを支援するものです。

FD 活動は、大学全体でなければ取り組むことができない授業評価アンケートや貴重な情報交換やベストプラクティスを知る機会となる FD 研修、そして学生の声を広く聞く機会である FD フォーラム等を実施しています。

2022 年度の授業評価アンケートは、林雄亮 FD 委員長が活動報告の中で触れているとおり、回答率が過去2年と比べて飛躍的に向上しました。しかし、オンライン方式になる前の水準には戻っていません。授業評価アンケートは、学生の評価をもとに各教員が当該授業を振り返るための良い機会です。引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

また、2022 年度の FD 研修会では普段知ることが難しい、他学部や他学科の先生の教授法に触れる貴重な機会となりました。専門分野は異なっても、学生の意欲を引き出し、課外学習時間を充実したものにするための取り組みや工夫はとても参考になったかと思います。登壇いただいた先生方にご負担をおかけしましたが、本学の教育力向上のためにはなくてはならない活動ですので、こちらに関しても、引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

そして、2023 年度の FD フォーラムでは、緊張してなかなか思うことを伝えきれない学生がいる一方で、するどい視点で授業そのものにとどまらずカリキュラム全体に関しての意見を述べる学生もおり、私たち教員にとっても貴重な学習の機会となりました。学生からいただいた意見に関しては、各学部等に持ち帰り、対応検討しているところであります。

大学を取り巻く環境は以前にも増して急速に変化し、厳しさを増しています。2022 年の出生数が 80 万人を切り、10 年後の 18 歳人口は 100 万人以下になります。幸いなことに本学の教育力は高く評価され、今日に至っていますが、今後、情報通信技術が発達し、グローバル化がさらに進展する中で、常に新しいことにも挑戦していかなければなりません。教育力向上において、その中核を担う活動の一つが FD 活動です。2021 年度まで FD 委員長であった立場からも、引き続き、本活動へのご理解とご協力をお願いして巻頭言とします。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響は 2022 年度も継続していますが、感染症拡大前の生活への緩やかな回帰や、新しい生活様式の定着も見られるようになりました。武蔵大学の授業運営も、年度当初から一部の大規模授業をオンデマンドにするなどの措置は継続しつつも、基本的には対面授業への移行がなされ、キャンパスも少しずつかつての活気を取り戻しています。

2022 年度、武蔵大学は大きな変化を迎えました。第1に、国際教養学部が開設され、無事に1期生を迎え入れることができたことです。長く続いた3学部体制からの変化は、国際教養学部だけでなく、既存の経済学部、人文学部、社会学部の在り方にも変化をもたらしています。この最初の1年間を振り返ってさまざまな課題も見えており、本 FD 活動を含めた継続的な取り組みが求められます。

第2に、時間割と授業スケジュールの変更です。昨年度までの 90 分×15 回の形式から、105 分×13 回の形式へと変更になり、授業スケジュールも大幅に変更となりました。授業1コマの時間を 15 分長くすることにより、前半と後半で異なる授業形態を組み合わせるなど、多様で魅力的な授業を展開しやすくなること、授業回数を 13 回とすることで祝日を確保しやすくなること、長くなった休暇期間を活用して、海外研修やインターンシップ、ボランティア等の活動に取り組みやすくなることなど、多くのメリットを見込んでの変革となりました。一方で、2022 年度の授業が終了した現在、授業時間の長さや少ない授業回数ゆえの課題なども確認され、今後の改善が期待されます。

さて、2022 年度は、具体的に以下のような FD 活動を実施しました。

第1に、毎年実施している「授業評価アンケート」については、今年度も引き続きウェブ上での実施となりました。従来からの懸念事項であった回答率は昨年度と比較して上がっており、対面授業への回帰とそこでのアナウンスが効いたものと考えられますが、絶対的な水準としては依然として低い状況ではあり、回答率の向上が継続的な課題となっています。

第2に、2022 年 11 月 24 日に、「2021 年度特色ある授業の事例紹介」というタイトルで、専任教職員を対象に「FD 研修会」をオンラインで実施しました。FD 委員の矢田部圭介委員による司会運営のもと、高橋学長による挨拶に続き、お二人の専任教員よりご講演をいただきました。はじめに、経済学部の山崎秀雄教授よりアクティブ・ラーニングとオンライン授業について、次に人文学部の直井一博教授より新型コロナウイルス禍における授業外自主学習の事例についてご報告いただき、いずれも大変興味深い実践がなされていることが共有されました。

第3に、2022 年 12 月 15 日に「FD フォーラム」をオンラインにて開催しました。「学生とともに考える授業改善」というテーマで、FD 委員の小川俊明委員による司会のもと、5組8名の学生より率直な意見や要望をプレゼンテーションしていただきました。各発表が終了後、所属学部の学部長や教務委員長らからリプライがなされ、活発な意見交換が行われました。また FD フォーラムにおいて登壇学生からいただいた意見については、そのリプライや今後の対応をまとめた資料を作成し、全学生へ公開する予定となっています。

以上、2022 年度の FD 委員会の主な活動を報告させていただきました。また、本報告書の最後には、会議記録などを掲載しています。これらの記録を通じて本年度の本学の FD 活動の状況を理解していただくことができれば幸いです。